

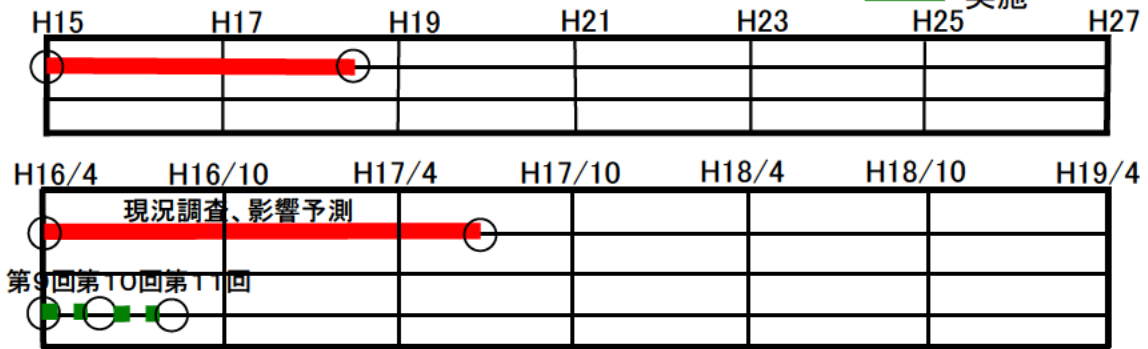
環境等の諸調査

●今後の調査検討内容

- ・環境に関する現地調査
- ・水質への影響と軽減策の検討
- ・動植物への影響と軽減策の検討
- ・環境に配慮した分派堰の見直し
- ・各関係機関との調整
- ・環境調査検討委員会の開催

●実施スケジュール

- 検討
- ■ ■ 試行・委員会
- ▬ 実施



●位置図



## 調査検討内容

現時点において不足している環境調査を実施し、ダム事業による環境への影響を把握し、影響軽減策等を踏まえて、実施可能な対策を選定するための調査検討を行ってきましたが、当面ダム建設を行わない方向であることを方針としましたので、ダム建設に伴う環境への影響について記述できませんが、これまでの調査検討結果については、今後HP等で公表します。

## 進捗状況(平成15年12月～平成17年1月22日)

「事業中のダムについての意見書」(平成17年1月22日)より抜粋

- ・余野川ダムの建設は、例えばオオタカをはじめとする多様な生物が生息するダム周辺の自然環境に重大な負の影響を及ぼす恐れが懸念される。

進捗状況(平成17年1月22日～平成17年12月22日)

「淀川水系5ダムについての方針」についてより抜粋

- ・淀川水系5ダムの計画についての調査検討結果を踏まえ、各ダムごとに、治水、利水の必要性、緊急性のみならず、経済的なメリット、環境への影響等の観点から総合的に検討し、国土交通省としての各ダムの方針をとりまとめました。今後まず、この方針と方針に至る調査検討結果を説明させて頂き、関係者との調整を行い、計画内容を確定していきます。

「淀川水系5ダムについての方針」(平成17年7月1日)より抜粋

- ・調査検討の結果、利水者である箕面市(上水)及び阪神水道企業団(上水)は全量撤退の見込みである。
- ・余野川ダムによる猪名川の洪水調節の必要性に変わりはない。しかし、当面緊急性を有する狭窄部(銀橋)上流における洪水調節効果は小さく、治水単独目的の事業となることで治水分の事業費が増加し経済的にも不利になる。
- ・したがって、緊急性を有する狭窄部(銀橋)上流の治水対策として、当該狭窄部を開削することとし、余野川ダム事業は当面実施せず、今後、水系全体の社会経済状況の変化や河川整備の進捗に応じて、治水上の緊急性について検討する。
- ・なお、連携して実施してきた関連事業については今後関係者と調整する。

委員会等からの意見

「5ダムの調査検討についての意見書」(平成17年12月22日)より抜粋

- ・北山川のダム予定地とその周辺では、ダム建設を前提とした道路および北山川の付替工事や、樹木の伐採等によって自然環境がかなり損なわれている。それによって変化した地域の自然環境をいかにして復元するかの検討が必要である。また、これまでの調査検討結果については、今後HP(ホームページ)等で公表と述べられているが、未だに公表されておらず早急に公表されることが必要である。

今後の見通し等

- ・これまでの調査検討結果について、今後HP等で公表します。

## 余野川ダム環境調査検討委員会

余野川ダム環境調査検討委員会は、余野川ダムの対象事業実施区域である里山が広がる大阪府北部に残された希少な緑地空間において、人と自然との共生を図るにあたり、アドバイザーボードとして広く専門の立場からご意見・ご指導を頂くために平成6年度に設立したものです。

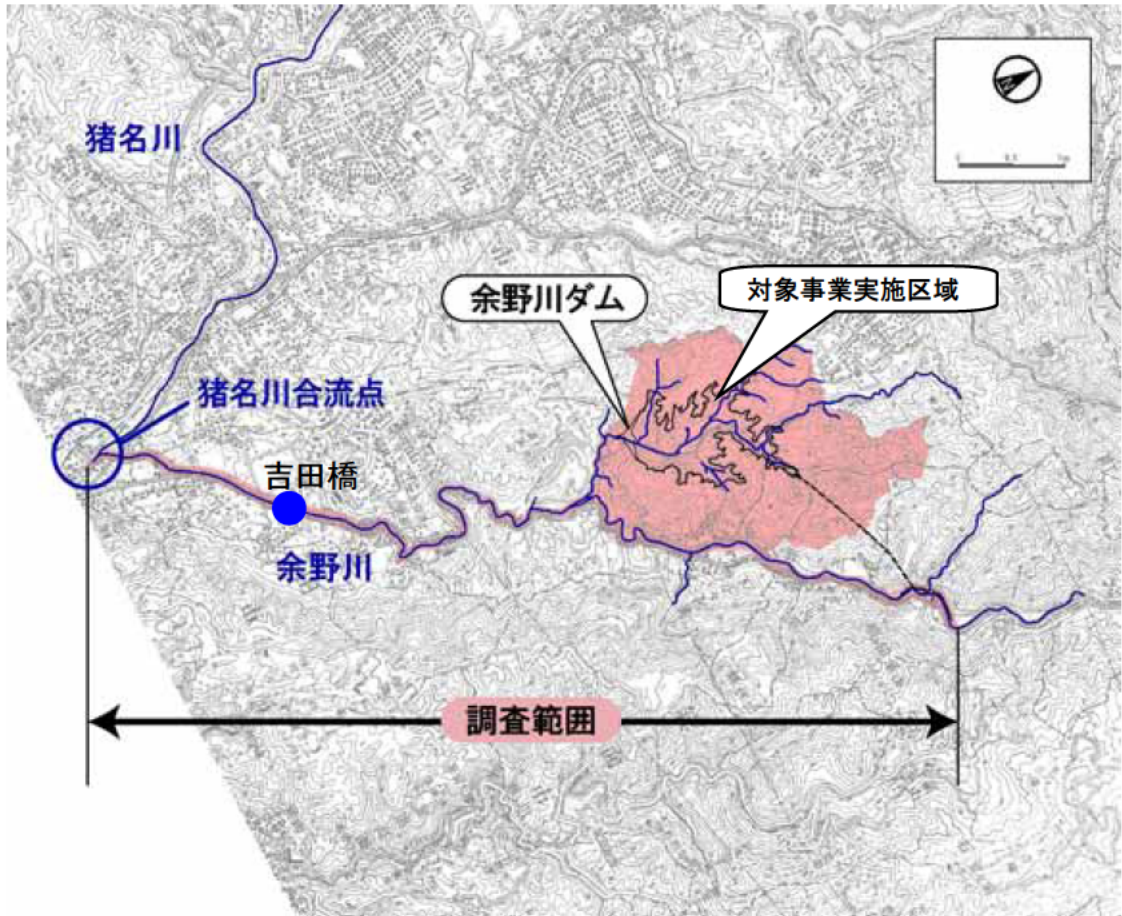
## 環境調査実施状況

項目		S	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	H	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16		
自然的 状況	降水量														*	*	*	*	*															
	気温														*	*	*	*	*															
	流況																																	
	風向・風速																																	
環境の 現況	水質														*	*	*	*	*	*														
	大気質・気象																		**	**							**		**					
	騒音等																				**													
	振動														**						**													
	陸上植物	*					*			*		*				*	*			*	*													
	水生植物等								*							*				*														
	哺乳類						*							*	*	*	*	*	*															
	鳥類					*							*			*		*	*	*														
	両生・爬虫類					*								*		*		*	*															
	魚類					*		*							*		*		*		*													
	昆虫类等					*							*	*	*		*		*		*													
	景観等															*																		

(注1) 表中において、「」印は現地調査の実施時期、「\*」印は文献・資料による調査時期

(注2) 表中において、「\*\*」印は大阪府が実施したもの

## ○環境調査範囲



## ○事業地周辺平面図



## 大気環境調査結果概要

### 1. 大気

#### (1) 降下ばいじん量

ダム工事区域周辺の2箇所(止々呂美小中学校、東ときわ台小学校)での降下ばいじん総量の年間平均値は、1.84～2.01t/km<sup>2</sup>/月となっている。なお、これらの値は、「住民の生活環境を保持することが特に必要な地域の指標値」である20 t/km<sup>2</sup>/月を下回っている。

#### (2) 大気質濃度

ダム工事区域周辺の2箇所(止々呂美小中学校、東ときわ台小学校)での年間測定結果(平成11年度)によれば、二酸化硫黄、二酸化窒素及び一酸化炭素についてはすべて環境基準に適合している。浮遊粒子状物質については短期的評価については環境基準を上回る値がみられるが、長期的評価については環境基準に適合している。

### 2. 騒音

ダム工事区域周辺の3箇所では、平日及び休日の全ての調査日とも、当該地域での騒音に係る環境基準値(昼間55dB、夜間45dB)を下回っている。ただ、道路沿道では、休日については道路沿道での環境基準値(昼間70dB、夜間65dB)を下回っていましたが、平日については環境基準値を上回っている。

### 3. 振動

ダム工事区域周辺の3箇所では、平日及び休日の全ての調査日とも、振動の測定下限値である30dBと同程度となっている。道路沿道では、休日についてはダム工事区域周辺と同様に、振動の測定下限値である30dBと同程度となっている。平日の昼間については35dBと休日に比べて高くなっていたが、道路交通振動の要請限度の値(昼間65dB)は大きく下回っている。

## 水環境調査結果概要

### 1. 流量

下新田橋地点における年平均流量は0.11m<sup>3</sup>/s(昭和63年～平成14年平均)、大向橋地点における年平均流量は0.77m<sup>3</sup>/s(昭和56年～平成14年平均)、吉田橋地点における年平均流量は1.15m<sup>3</sup>/s(昭和56年～平成14年平均)となっている。

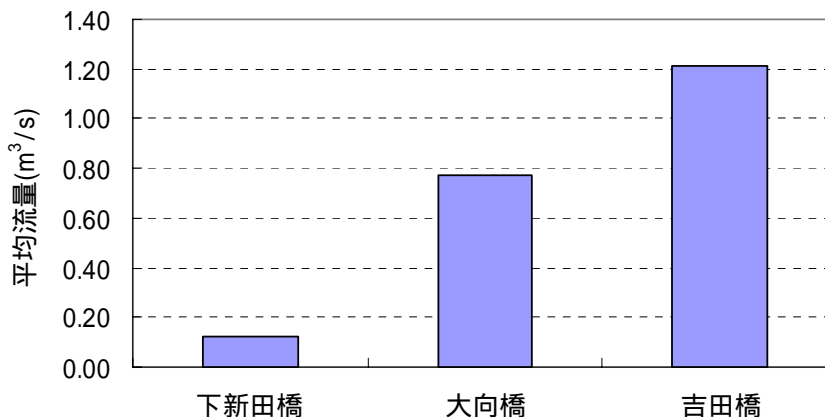


図 下新田橋、大向橋、吉田橋における平均流量比較

## 2. 水質

下新田橋、大向橋、吉田橋地点における水質概要を下表に整理する。

表(1) 下新田橋

水温	昭和57年から平成13年の間では、概ね11～14 の範囲で推移しているが、平成14年は15 程度となっている。
pH	昭和57年から平成14年の間で、経年的な変化傾向は見られない。概ねpH8を若干下回る値で推移している。
BOD	昭和57年から平成8年の間では、0.5～1.0mg/L程度の範囲で推移していた。平成9年以降は、0.5mg/L前後の値で推移し、水質の改善傾向が見られる。
SS	出水の多い年では、大きな値を示すが、平年では2mg/L程度の値である。
DO	昭和57年から平成14年の間では、10～11mg/L程度の範囲で推移している。

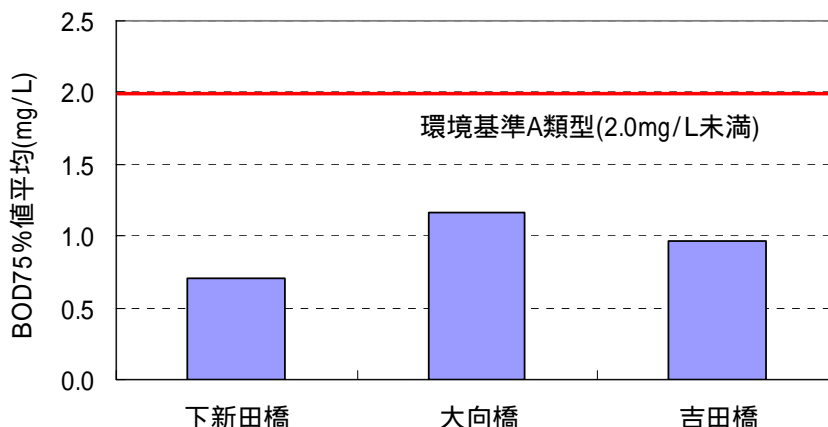
表(2) 大向橋

水温	昭和57年から平成14年の間では、14 前後で推移している。
pH	昭和57年から平成14年の間で、経年的な変化傾向は見られない。概ねpH8で推移している。
BOD	昭和57年から平成8年の間では、1.0mg/Lを越える期間が概ね継続していた。平成9年以降は、改善傾向にあり、0.5～1.0mg/Lとなっている。
SS	出水の多い年では、大きな値を示すが、平年では5mg/L程度の値である。
DO	昭和57年から平成13年の間では、10～11mg/Lの範囲で推移している。

表(3) 吉田橋

水温	昭和57年から平成14年の間では、15 前後で推移している。合流する北山川流末の値と同程度の数値を示す。
pH	昭和57年から平成14年の間で、経年的な変化傾向は見られない。大向と同様、概ねpH8で推移している。
BOD	昭和57年から平成6年の間では、1.0mg/L前後の期間が継続していた。平成7年以降は、改善傾向にあり、近年では0.5mg/L程度まで改善している。
SS	出水の多い年では、大きな値を示すが、平年では5mg/L程度の値である。
DO	昭和57年から平成14年の間では、10～11mg/Lの範囲で推移している。

現況のBOD濃度は北山川(下新田橋)、余野川(大向橋、吉田橋)いずれも環境基準値A類型(2.0mg/L未満)を満足しており、清廉な水質状況であると言える。



## 動物、植物、生態系調査結果概要

## 1. 動物

既存調査の確認種のうち、天然記念物、レッドデータブック等による学術上又は希少性の観点から抽出した重要な動物種の各分類群の種数を下表に示す。

表 重要な動物種の種数

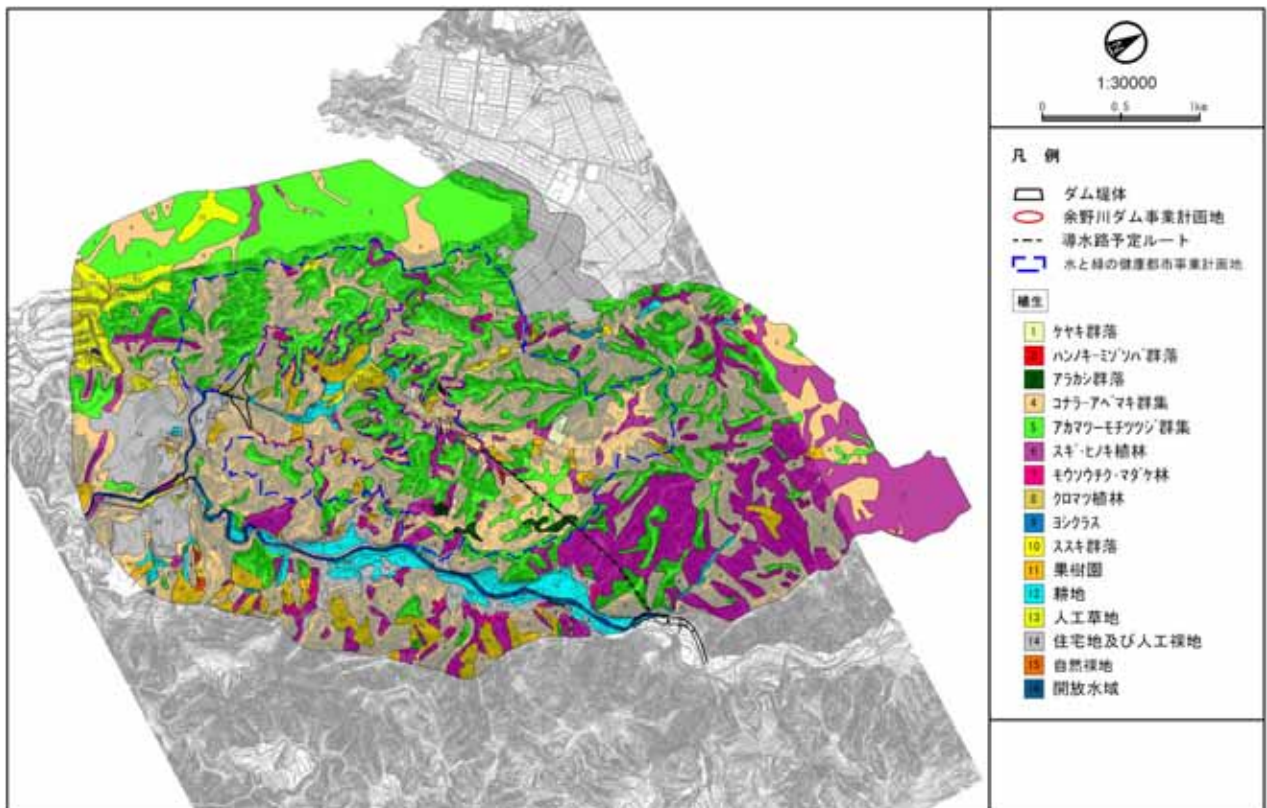
分類群	目数	科数	種数等
哺乳類	3目	5科	8種
鳥類	12目	20科	32種
爬虫類	2目	2科	4種
両生類	2目	4科	7種
魚類	5目	6科	11種
陸上昆虫類	7目	18科	31種
底生動物	4目	6科	6種
合計	33目	60科	98種

## 2. 植物

既存調査の確認種のうち、天然記念物、レッドデータブック等による学術上又は希少性の観点から抽出した重要な植物種の各分類群の種数を下表に示す。

表 重要な植物種の種数

分類群	綱数	科数	種数等
種子植物・シダ植物	2綱	13科	20種



現存植生図(平成4年度調査に基づく)

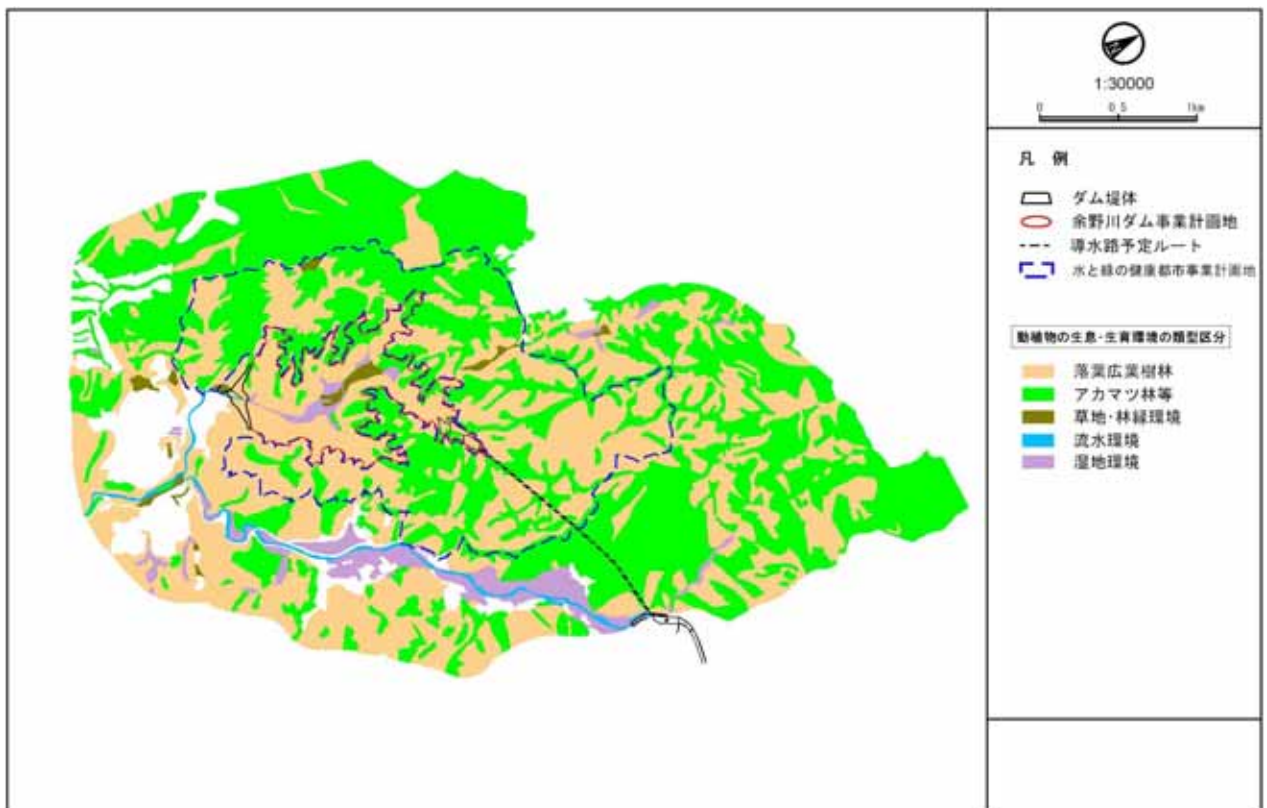


## 3. 生態系

## (1) 環境類型区分

余野川ダム事業計画地では落葉広葉樹林、草地・林縁環境、湿地環境の環境割合が周辺地域より高く、尾根部にアカマツ林等、谷底平地に草地・林縁環境、流水環境、湿地環境が分布している。

番号	環境類型区分	事業計画地						周辺地域 (植生図全体)	
		余野川ダム		水と緑の健康都市		合計		面積	割合
		面積	割合	面積	割合	面積	割合		
1	落葉広葉樹林	54.4ha	68.4%	158.3ha	50.6%	212.7ha	54.2%	502.3ha	44.8%
2	アカマツ林等	16.6ha	20.9%	152.5ha	48.7%	169.1ha	43.1%	556.2ha	49.6%
3	草地・林縁環境	2.9ha	3.7%	2.0ha	0.6%	4.9ha	1.3%	9.0ha	0.8%
4	流水環境	0.1ha	0.2%	0.0ha	0.0%	0.2ha	0.0%	9.4ha	0.8%
5	湿地環境	5.4ha	6.8%	0.2ha	0.1%	5.6ha	1.4%	43.6ha	3.9%
合計		79.5ha	100.0%	313.0ha	100.0%	392.5ha	100.0%	1120.5ha	100.0%



動植物の生息・生育環境の環境類型区分

## (2) 重要な生息・生育環境

余野川ダム周辺では落葉広葉樹林に生息・生育する動植物が多く、草地・林縁環境、流水環境、湿地環境に依存して生息・生育する動植物がみられた。

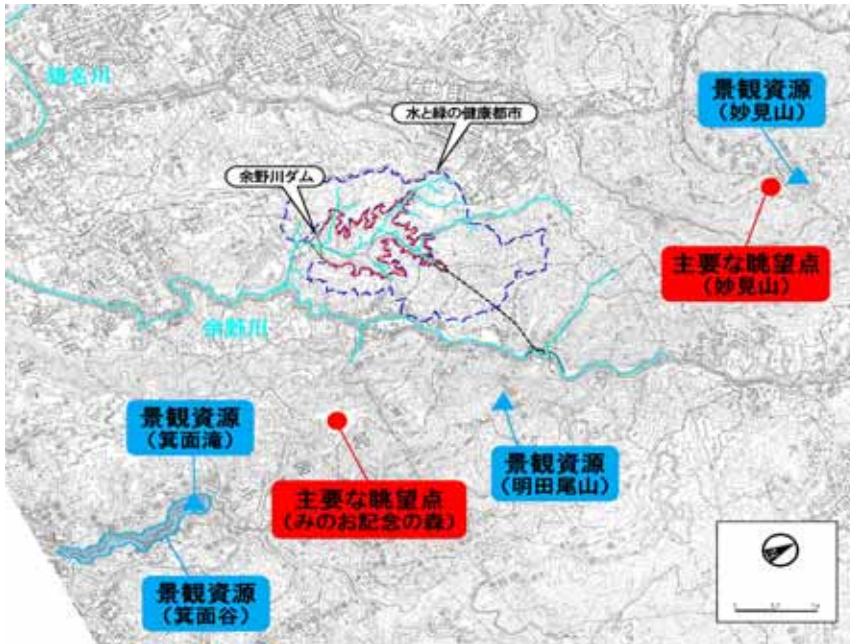
## 景観調査結果概要

### 1. 主要な眺望点

余野川ダム周辺には主要な眺望点が2地点分布している。

### 2. 主要な景観資源

余野川ダム周辺には景観資源が4カ所分布している。



妙見山



箕面滝

## 人と自然との触れ合いの活動の場調査結果概要

対象事業実施区域の南東方向にみのお記念の森やこもれびの森といった森林公園等が分布し、豊能自然歩道や東海自然歩道といったハイキングコース等が、森林公園等の周辺と北方の妙見山を結ぶように設定されている。

対象事業実施区域付近では、下止々呂美の余野川沿いにつり場が整備され、山裾では観光農園(クリ園)が営まれている。対象事業実施区域内では、人と自然との触れ合いを目的とした施設等の整備はなされていないが、そのほぼ全域が身近な自然と触れあえる自然観察等の場として広く一般の人々に親しまれている。

